



うち 家 読 の ス ス メ

読書は、多くの言葉や表現に触れることで、自分の気持ちや考えを人に伝える力や新しいものを考えたり作り出したりする力を育むなど、子どもの健やかな成長に必要です。

子どもの読書習慣は、日常生活を通して育まれます。読書を生活の中に位置付け、家族みんなで「家読」をしてみませんか。

家読は、家庭での読書を通して、家族のコミュニケーションを図る取組です。決まったルールやスタイルはありません。

本を読むと、今まで知らなかったことを知ることができたり、会ったことのない人に出会えたり、行ったことのない場所や知らない国にだって行くことができる楽しさがあります。



読書は、
・新しい知識や情報を得られる
・豊かな言葉や表現を学べる
・感性が豊かになる
・想像力や空想力が養える
・感動を味わえる
などのよさがあります。
(平成30年度「国語に関する世論調査」より)

よい本との出会いは、心に残り、一生の宝物になることもあります。

家読の取組例



- 読んだ本についての感想を家族で話し合ってみる
- 本の読み聞かせをしてみる
- 読書、学習、運動、睡眠、テレビやゲーム、スマートフォンの時間など、家族で日常生活習慣を見直しながら読書の時間を設定してみる
- 読んだ本のタイトルや読んだ日などを読書通帳※1などに記録してみる など

※1 読書通帳

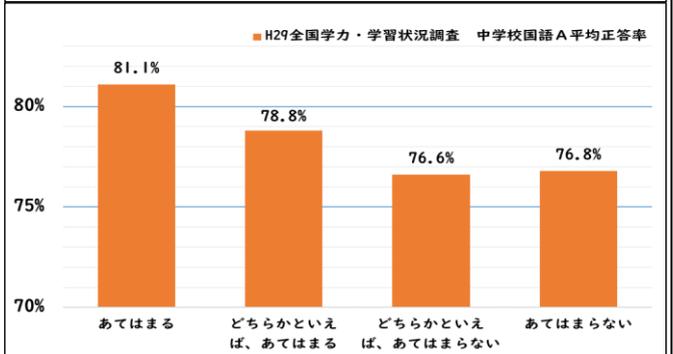
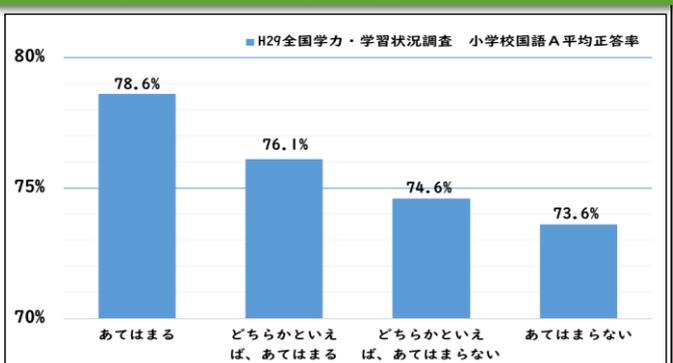
自分が読んだ本の書名や感想等を記録に残す「読書通帳」を市町村立図書館で発行している地域もあります。読書の記録を残しておくことで、例えば、過去に読んだ本を振り返ったり、読書した本を貯金のように蓄積することで子どもの達成感につながったり、楽しみながら読書することができます。道教委ホームページに参考様式を掲載していますので御活用ください。

また、「子どもの成長に応じた家庭での読書活動」のリーフレットも掲載していますので、御覧ください。

〇URL : <http://www.dokyojoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssgg/move/dokusyo/6fukyuukehatsu.htm>



保護者アンケート「お子さんと読んだ本（電子書籍は含むが、漫画や雑誌、教科書、参考書は除く）の感想を話し合ったりしている」と全国学力・学習状況調査の平均正答率の関係



お子さんと読んだ本の感想を話し合うことについて、保護者が「あてはまる」と回答した家庭の子どもは学力が高い傾向にあります。

(文部科学省委託研究「平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」(国立大学法人お茶の水女子大学)を基に作成)

子どもの成長に応じた家庭での読書活動をしませんか

北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課読書推進係

子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を育むため、ご家庭で子どもの成長に応じた読書活動に取り組んでみませんか。

乳幼児期（0歳～6歳）「本に出会う」

<3歳までの特徴>

徐々に自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになるとともに、文字の存在を意識し、絵本に興味を示すようになります。

<4歳以上の特徴>

日常生活に必要な言葉が分かるようになり、かな文字も全部読めるようになってきます。



<保護者に期待される役割（例）>

この時期は、例えば、保護者などが絵本や物語を読み聞かせたり、ときには歌を歌ったりしながら、子どもが読書の楽しさを味わうことができるようにすることが考えられます。

小学生期（6歳～12歳）「本に親しむ」

<小学生期の特徴>

学年が進むにつれて、本への関心を高め、多くの本を読んだり、目的に合った本を読んだりするようになります。

<保護者に期待される役割（例）>

この時期は、例えば、日常生活や学校での学習などを通して疑問に思ったことなどを、本を活用して子どもと一緒に調べたり、公立図書館や書店と一緒に出かけ本を選んだりするなど、子どもと一緒にいろいろな本に親しみ、子どもと一緒に読書の楽しさを味わうことが考えられます。

中学生期（12歳～15歳）「本から学ぶ」

<中学生期の特徴>

多くの本の中から自分に合った本を選択できるようになってきます。また、共感・感動する本に出会うと、何度も読むようになります。

<保護者に期待される役割（例）>

この時期は、例えば、子どもの趣味や興味・関心に応じた本を薦めたり、将来の夢や進路に関する本を子どもと一緒に探して読んだりするなど、読書が自分の生き方や社会との関わりがあることを子どもが実感できるようにすることが考えられます。

高校生期（15歳～18歳）「本と生きる」

<高校生期の特徴>

読書の目的や資料の種類に応じて、適切に読むことができるようになってきます。

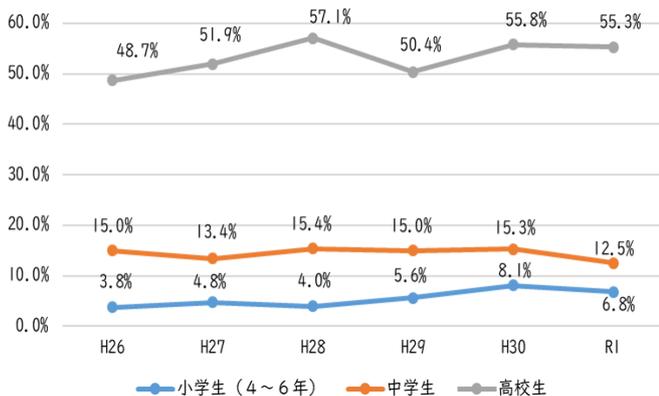
<保護者に期待される役割（例）>

この時期は、例えば、保護者と子どもが同じ本を読んで感想や意見を語り合うことや様々なジャンルの本を読んだり、目的に応じて本を選んで読んだりするよう子どもに薦めたりするなど、読書の幅を広げ、生涯にわたって読書に親しむことができるようにすることが考えられます。



【コラム】 中学生、高校生の不読率について

不読率（1か月に読んだ本が0冊）



中学生から高校生へと学年が進むにつれて、不読率の割合が高くなる傾向にあります。読まない理由としては「普段から本を読まない」、「読みたいと思う本がない」、「部活動等で時間がない」、「ゲームやメール、SNS等をしていて時間がない」などが挙げられます。読書を促すために、例えば「テレビや映画の原作や関連の本」など子どもが親しみやすい本を薦めたり、「スマホの時間を短縮」、「10分早く起きる」など1日の生活時間を見直して読書の時間を生み出すよう促したりすることが考えられます。

日常生活を振り返ったり、読書の意義について子どもと話し合ったりしながら、子どもが主体的に読書に親しめるよう、コミュニケーションを深めてはいかがでしょうか。

読み聞かせて親子のコミュニケーションを

北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課読書推進係

読み聞かせは、子どもの情緒や想像力を育て、ことばを覚える機会にもなります。親にとっても子どものすてきな表情を通して子育ての楽しさを感じるひとときです。

●読み聞かせが育むもの●

「ことば」と「こころ」を育てます

子どもは、ことばを耳で覚えます。耳からどんどん新しいことばを吸収していきます。

ことばを覚えるだけでなく、耳から聞いて具体的なものや場面などのイメージをふくらませたり、さまざまな気持ちを感じたりすることが大切です。



家族への信頼を育てます

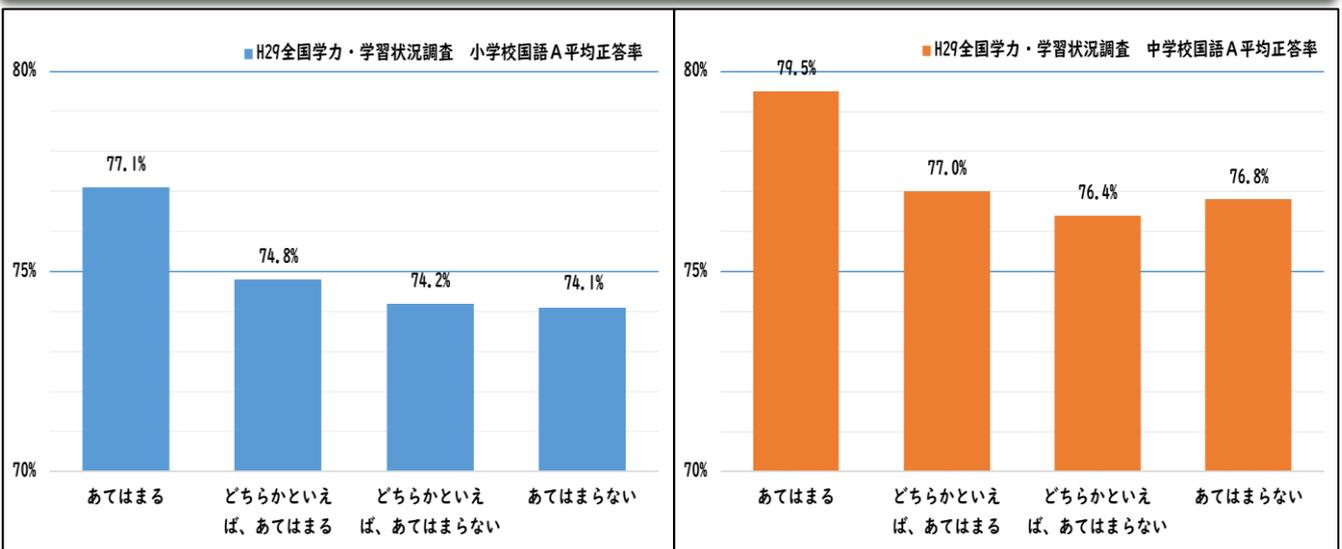
読み聞かせを通してふれ合う時間は、親子にとって楽しいひとときになり、子どもの家族への信頼を育てます。



学ぶ力の基礎を育てます

読み聞かせを通して本の世界にふれることは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、学ぶ力の基礎を育てます。

保護者アンケート「お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをした」と全国学力・学習状況調査平均正答率との関係



「お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをした」の項目で、「あてはまる」と答えた家庭の子どもの学力が高い傾向にあります。

子どもの成長に合わせて読み聞かせを

0歳～2歳の読み聞かせ「親子遊びの一つとして楽しもう」

絵本の読み聞かせは、生まれてからすぐにでもはじめられます。子どもが座れるようになったら、ひざに乗せるなど、寄り添って読むことが大切です。

途中までや好きなページだけでも読み聞かせたり、ときには歌を歌ったりするなど、親子遊びの一つとして楽しみましょう。

【おすすめの絵本】

-  子どもの好きなものがのっている
-  身近な動物や植物が登場する
-  生活の中のことばにふれている
-  ことばや音のくり返しがある など



2歳～6歳の読み聞かせ「ことばやジャンルを広げよう」

会話ができるようになってくると、ことばの数が増えていきます。いろいろな実体験を大切にしながら、絵本や本のジャンルを広げていきましょう。

この時期は、文字を覚えはじめても、読み聞かせは続けましょう。絵本や本が読めても、文字を追うのに一生懸命になり、お話を楽しめるとは限りません。読み聞かせてもらうことで内容に集中できるので、絵本や本の世界に引き込まれていきます。

【おすすめの絵本や本】

-  昔話
-  物語・童話
-  科学絵本
-  生きもの図鑑 など



絵本はいろいろな場所にあります

さまざまなジャンルの本と出会う機会を増やしましょう。

道立図書館をはじめ、市町村立図書館（室）はたくさん本をそろえており、無料で借りることができます。「読み聞かせ会」や「わらべうたの会」などのイベントを開催しているところもあります。

図書館（室）から遠い地域に住んでいる方などのために、図書館の本を車に積んで巡回する移動図書館を運行している地域もあります。図書館（室）と同じように本の貸し出しを行っています。

市町村の子育て支援センターなど、絵本を読むことができる施設があります。地域によっては、乳幼児検診に合わせて読み聞かせ会などのイベントを開催するところもあります。

